

「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」に基づく環境づくりの実施内容とサービス成果の検討

—環境づくり実践事例データ集（特養版）の作成に向けて—

児玉桂子・大島千帆・古賀誉章
廣瀬圭子・鈴木真智子・沼田恭子

Initiatives and service outcomes of environment creation based on a “program on the creation of institutional environments supportive of elderly people with dementia”: Working towards the creation of a database of practical examples of environment creation (special nursing home edition)

Keiko Kodama · Chiho Oshima · Takaaki Koga
Keiko Hirose · Machiko Suzuki · Kyoko Numata

Abstract: The “program on the creation of institutional environments supportive of elderly people with dementia” was used to compile 266 examples of environment creation implemented at traditional special nursing homes for the elderly, and to analyze service outcomes based on environment creation objectives, implementation methods, employed environmental elements, and Professional Environmental Assessment Protocol (PEAP Japanese version 3). Environment creation objectives were categorized into 47 sub-items. The environment creation initiative was a combination of physical support and care support in approximately 60% of examples, and small-scale environmental elements were often employed, such as accessories, furniture and welfare equipment. As a service outcome, a high rate of improvement of 70%–80% was achieved in eight dimensions of the PEAP V3. A database of practical examples of environment creation demonstrating initiatives and service outcomes of environment creation according to each environment creation objective was subsequently proposed.

Key Words: Elderly people with dementia, Environment creation support, program on the creation of institutional environments, Professional Environmental Assessment Protocol (PEAP) Japanese Version 3, Database of practical examples of environment creation

要旨: 「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」を用いて、従来型特別養護老人ホームで実施された環境づくり266件を取り上げ、環境づくりの目的・実施手法・用いた環境要素・認知症高齢者環境支援指針（以下PEAP日本版3）に基づくサービス成果について分析を行った。環境づくりの目的は、47の小項目に分類された。環境づくりの実施内容は、約6割で物理的対応とケア的対応がセットで実施され、小物や家具・福祉用具など小規模な環境要素が多く用いられた。サービス成果として、PEAP日本版3の8つの次元において、70～80%の高い向上率が得られた。個々の環境づくりの目的別に、環境づくりの実施内容とサービス成果を示した環境づくり実践事例データ集を提案した。

キーワード: 認知症高齢者、環境づくり支援、施設環境づくり支援プログラム、PEAP日本版3、環境づくり実践事例データ集

I 研究の背景と目的

1. 研究の背景

アメリカにおける老年環境心理学では1990年代から認知症高齢者に及ぼす環境の影響に関する研究が盛んに行われ、Weismanらが認知症高齢者は配慮された環境のもとでは落ち着きを取り戻すなど行動の改善や生活の質の向上がもたらされることを明らかにした¹⁾。

こうした考え方にに基づき、環境の視点を取り入れた質の高いケアや暮らしを実現するために、「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」が作成された²⁾。プログラム全体やその一部である「認知症高齢者への環境支援指針」は、厚生労働省による「認知症介護実践者研修」、「個室ユニット型施設職員研修」、「認定認知症看護師研修」などに採用されて、環境づくりの実践が広がりつつある^{3) 4)}。

ケア現場での環境づくりの実践を支援するために、プログラム評価理論⁵⁾に基づき「施設環境づくり支援プログラムの継続と向上のための理論モデル」⁶⁾が示されるなど、科学的根拠に基づく実践を支援する考え方やツールの整備も進められつつある⁷⁾。

認知症ケア分野では、実践的成果を紹介した認知症ケア事例集⁸⁾の作成や認知症ケアの標準化に向けた取り組み⁹⁾に関心が高まっている。行動・心理症状 (behavioral and psychological symptoms of dementia = BPSD) のある認知症の人に対して実施したケアとその成果を多数登録して、認知症の状態像に応じた有効性の高いケアを明らかにする研究が2017 (平成29) 年からスタートしている。2018 (平成30) 年の報告書では、約30名と限られた人数であるが、食事・妄想・暴力等に関する行動・心理症状と実践したケアの有効性に関する実証研究が進められ、症例の集積を目指している^{10~12)}。

認知症ケア環境について、在宅環境に比べて施設環境の研究のほうが多いことが文献レビュー¹³⁾に示されているが、認知症ケアの実践に役立つ環境に関する資料¹⁴⁾はまだ限られている。認知症ケア現場においてどのような内容の環境づくりが行われ、どのような成果がもたらされているかについて、科学的な手続きによる実践事例を集積して、それを共通の視点から整理した環境づくり実践事例データ集の必要性は高い。このような資料は、環境を生かしたケアを推進して、認知症高齢者のケアの質や生活の質の向上に寄与すると考えられる。

2. 用語の定義

(1) 環境づくりと認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム

施設環境は、建物や設備などの物理的環境、介護者の関わりなどの社会的環境、サービスやプログラムなどの運営的環境から構成される。認知症高齢者の生活歴や心身状況に配慮して、これら3つの環境要素を活用して認知症の人を支援することにより、認知症高齢者のライフスタイルの実現や自立、行動・心理症状の緩和を図る実践を「環境づくり」と定義する。

「環境づくり」を現場職員が実践するために、「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム (以下「施設環境づくり支援プログラム」と略す)」が開発された。このプログラムは、6ステップ (ステップ1: ケアと環境への気づきを高める、ステップ2: 環境課題をとらえて、目標を定める、ステップ3: 環境づくりの計画を立てる、ステップ4: 環境づくりを実施する、ステップ5: 新しい環境を暮らしとケアに活かす、ステップ6: 環境づくりを振り返る) から

構成され、環境づくりの実践を助ける豊富なツールが用意されている²⁾。

(2) 認知症高齢者への環境支援指針

Weisman らが米国で開発した Professional Environmental Assessment Protocol¹⁵⁾ を日本の実情に合わせて3回の改定を経たものが「認知症高齢者への環境支援指針（以下 PEAP 日本版3と略す）¹⁶⁾」である。認知症高齢者のケアと環境に重要な8次元（見当識への支援・機能的な能力への支援・環境における刺激の質と調整・安全と安心への支援・生活の継続性への支援・自己選択への支援・プライバシーの確保・ふれあいの促進）から構成され、環境づくりのプロセスを通じて認知症ケアと環境の関わりの基本と位置付けられる。

(3) サービス成果

「施設環境づくり支援プログラムの継続と向上のための理論モデル」は、プログラム評価理論¹⁷⁾に基づき、プログラムの実施に関する資源や活動内容、そこから生じる実施結果や成果の体系を示した⁶⁾。施設環境支援プログラムの実施による成果として、サービス内容の改善をサービス成果、利用者の行動変容などを利用者成果と定義している。サービス成果として、職員の認知症ケアスキルの向上やケアプランの改善なども挙げられるが、本研究では環境づくりがもたらす環境改善を PEAP 日本版3の8次元により捉えて、サービス成果とする。

3. 研究の目的

「施設環境づくり支援プログラム」を用いた多くの実践^{3) 4)}の中で、実践事例数の多い従来型特別養護老人ホームに的を絞り、「施設環境づくりプログラム」に関する研修を受けた介護職員等が中心となり、環境づくりの理論と手法に熟達した専門家（以下環境づくり支援専門家と略す）の支援を得て着実に実施された環境づくりを取り上げる。その実践の中で、職員により記録された「環境づくり実践記録シート」を分析対象とする。

まず、「環境づくり実践記録シート」の記録内容について、環境づくりの目的、環境づくりの実施手法や用いた環境要素、環境づくりによるサービス成果を共通の視点で捉えられる分類方法を示す。次に、暮らしやケアの内容に大きな影響を及ぼす居室、食堂、浴室など生活空間別に、実施された環境づくりの目的・実施手法・取り組まれた環境要素の内容と得られたサービス成果について明らかにする。

以上の分析を踏まえて、個々の環境づくりの実践事例を上記の共通の視点で整理した「環境づくり実践事例データ集」の提案と活用可能性に言及する。

II 研究の方法

1. 環境づくりの実践施設と実施方法

(1) 対象施設

X 社会福祉法人の従来型特別養護老人ホーム a～d の4施設を対象とした。a 施設は定員120名（1999年開設）、b 施設は定員70名（1993年開設）、c 施設は定員108名（1989年開設）、d 施設は定員50名（1994年）である。

(2) 環境づくりの実施方法

環境づくりは、「施設環境づくり支援プログラム」に示す6ステップに沿い²⁾、基本的なツ

ルを用いて、毎年4月から翌年3月の1年を単位として、各施設の職員により進められた。X社会福祉法人における環境づくりの具体的な進め方や組織体制はすでに取り上げている⁶⁾ので、ここでは詳細は割愛する。「ステップ6：環境づくりを振り返る」では、1件の環境づくりに対して、1枚の「環境づくり実践記録シート」を用いて、取り組んだ場所、環境づくりの目的と内容、PEAP日本版3による環境づくり前後の評価等が各施設の職員チームの合意により記入された。「環境づくり実践記録シート」の事例を、図1に示した。

なお、施設環境づくりの中心となる職員は、区内の研修センターで実施された「施設環境づくりリーダー研修」や「施設環境づくり基礎研修」¹⁸⁾を受講している。「施設環境づくりリーダー

環境づくり実践記録シート NO. (1) ○○年○月○日 記入者 (認知症ケア推進委員会)				
1. 環境課題 (STEP1~2)	(場所) 廊下奥の洗濯物干し場			
	スペースが狭く、洗濯物を干したり、畳んだりする場所がない。洗濯用品が乱雑に置かれている。非常口前に物干しがあり、避難の際は支障が出る。			
2. 暮らしのイメージ (STEP3)	(利用者の暮らし方シミュレーションシートのポイント) 自分の洗濯物は、他人に任せないで自分でやりたい。			
3. 目標設定 (STEP3)	(暮らし方のイメージを実現するための環境づくりの具体的な目標) 洗濯干し場が整頓され、自分で洗濯干しやたたみができる。			
4. 環境づくりの内容 (STEP4~5) (物理的環境づくりのみでなく、ケアや運営での工夫を説明。環境づくり前後の写真も用意。)	<ul style="list-style-type: none"> ● 物理的環境づくり 木箱を撤去して、洗濯用品を見えるように整理。廊下の空きスペースに突っ張り棒や棚を設置。利用者が使いやすい高さを考慮する。洗濯物をたたむ台を用意。 ● ケアの環境づくり・運営的環境づくり 洗濯物を干す、取り込む、たたむ等を利用者と一緒に行うように、職員や介護ボランティアに周知する。利用者のケアプランに位置付ける。 			
				
5. PEAP 評価 (STEP6) ○: 支援されている ×: 支援が不足? (良いとも悪いとも言えない) 関連しない次元は空けておく。		事前	事後	環境づくり後にどのように変わったかを記す
	1. 見当識	×	○	利用者に洗濯物を渡すと、迷わずその場所に行かれる
	2. 機能的能力	×	○	今まで洗濯等しなかった利用者が率先して手伝うようになった
	3. 刺激の質と調整	×	○	雑然とした場所が整理されきれいになった
	4. 安全と安心	×	○	ものが整理され、安全になった 自分の洗濯物の在りかが分かり、安心できる
	5. 生活の継続性	×	○	利用者の役割になり、生活に活気が出た
	6. 自己選択	×	○	洗濯を自分でやる選択肢が増えた。自分に合った用具を選んで洗濯物干しをしている
	7. プライバシー			
	8. ふれ合いの促進		○	利用者同士・職員・ボランティアと洗濯物干しやたたむ機会が増え、笑顔が多くなった
6. 利用者の評価	自分の洗濯物がどこにあるかわかり安心 (利用者)。洗濯作業がやりやすくなり助かる (ボランティア・職員)。自分の洗濯物を探し回る行為がみられなくなった (職員)。			
7. 今後の課題	今後も利用者が洗濯物を干すたたむ作業を行えるように、環境づくりを続けていく。 現在の仮設的な設備から、工事をいり恒久的な洗濯物干しを検討する。			

図1 施設環境づくり支援プログラムのSTEP1~6に基づく環境づくり実践記録シートの記入事例

研修」は、「施設環境づくり支援プログラム」のステップ1～6の講義・演習と自施設での実践を含む6回コースである。さらに各施設では、多くの職員を対象に伝達研修を実施して、環境づくりのスキルの共有が図られている。

本論文では、「環境づくり実践記録シート」が採用された2010～2016（平成22～28）年の7年間を取り上げた。環境づくり支援専門家は、第1期（2010～2012年）には年数回、第2期（2013～2016）には年1～2回、各施設を訪問して環境づくりの進め方・評価・記録等について支援した。

2. 環境づくり実践記録シートの整理の方法

(1) 実施場所の分類

「環境づくり実践記録シート」に記された場所を、食堂・リビング、浴室・トイレ・洗面、居室、廊下・ホール、ベランダ・庭、静養室の6空間に分類した。

(2) 実施内容の整理方法

①実施手法の分類方法

環境づくりの実施手法は、「施設環境づくり支援プログラム」のステップ4「環境づくりを実施する」に準じて、1) 物理的対応（工夫、購入、工事）、2) ケアの対応（利用者に合わせた調整、声掛け、職員への周知など）、3) 運営的対応（運営プログラムの変更、資金調整など）の3つに分類した²⁾。

②環境要素の分類方法

物理的対応に用いられた環境要素は、「施設環境づくり支援プログラム」のステップ1に示される「PEAPを構成する多様な環境要素」の分類を参考に、1) 構造レベル（壁・床など建物本体に関わるもの）、2) 準構造レベル（手すり・浴槽・洗面カウンターなど工事を伴うもの）、3) 家具・福祉用具・福祉機器（いす・テーブル・カーテン・設置型の手すりなど）、4) 小物（絵画・掲示物・食器・クッション・衣類・観葉植物など）、5) その他（明るさ・空気・色彩・音など）に分類した²⁾。

③環境づくりの目的の分類方法

「環境づくり実践記録シート」の「目標設定」は、記入の段階で1シート1目標として、「自分で〇〇ができる」など利用者の立場に立つ表現に統一した。1) 6つの空間ごとに類似した目的を集めて、集約して小分類として、命名を行った。小分類は、環境づくりが具体的にイメージできるレベルとした。2) 6空間全体を見て、小分類の言葉の共通化を図った。3) 類似した小分類を集めて、6空間全体の大分類として命名を行った。以上の作業は、6名の研究者の合意で進めた¹⁹⁾。なお、研究者の中には、認知症ケア実践の経験者も含まれる。

④サービス成果の分類

PEAP日本版3を構成する8次元について、環境づくりがなされている（○）、不足している（×）、どちらともいえない（?）、該当しない次元はブランクとして4分類で環境づくりの前後の評価が行われ、理由が記された（図1）。この評価に基づき、1) 向上（×・?→○）、2) やや向上（×→?）、3) 変化なし（すでに環境づくりがなされ、それが維持されているために変化なし○→○）、4) 変化なし（その他）、5) 低下（○・?→×）の5分類とし

た。環境づくり前に、該当しないとされた次元が環境づくり後に○と評価された場合には「向上」に、×と評価された場合には「低下」に分類した⁶⁾。

3. 研究倫理への配慮

各施設の責任者と研究者は、環境づくりの意図、成果の公表、対象者に不利になった場合の速やかな中止など研究倫理への配慮について利用者や家族、関係する職員に文書を用いて説明を行い了解を得た。研究者は分析や学術発表に際して、個人のプライバシー保護など研究倫理を遵守することを文書で説明を行い、法人及び各施設の責任者の了解を得た。

Ⅲ 結果

1. 環境づくりが実施された空間と分析対象

実施場所は実施件数の多い順に、食堂・リビング 80 件 (28.8%)、浴室・トイレ・洗面所 77 件 (27.7%)、居室 60 件 (21.6%)、廊下・ホール 49 件 (17.6%)、ベランダ・庭 7 件 (2.5%)、静養室 5 件 (1.8%) であり、合計 278 件であった。

以下の分析では、実施件数の多い上位 4 空間 266 件を取り上げて、全体と空間別に集計を行った。なお、施設別の実施件数は、a 施設では 56 件 (21.2%)、b 施設では 87 件 (32.7%)、c 施設では 33 件 (12.4%)、d 施設では 90 件 (33.8%) であった。

2. 環境づくりの目的の類型化

(1) 4 空間別環境づくりの目的の小分類

4 空間別に環境づくりの目的の小分類を、表 1 に示した。食堂・リビングでは、4 空間の中で最も多い 14 小分類項目が抽出され、出現頻度が 10% 以上を取り上げると、「好きな活動を選べる (13.8%)」、「個人に合った過ごし方ができる (13.8%)」、「良い雰囲気の中で食事を楽しむ (10.0%)」が上位であった。

浴室・トイレ・洗面では、10 小分類項目が抽出され、「自分の力を生かして動作ができる (22.1%)」、「入浴・整容・トイレを楽しめる (16.9%)」、「清潔で快適に使える (16.9%)」、「安全に動作ができる (11.7%)」、「プライバシーに配慮される (11.7%)」が上位であった。

居室では 12 小分類項目が抽出され、「居室で自分らしく過ごすことができる (16.7%)」、「自分のベッドだとわかる (11.7%)」、「安全に動作ができる (11.7%)」、「快適に過ごせる (10.0%)」が上位に位置した。

廊下・ホールでは、11 小分類項目が抽出され、「居心地の良い居場所がある (24.5%)」、「自分の力を生かして動作ができる (16.3%)」、「周囲の環境から楽しく良い刺激を受ける (16.3%)」、「有用な情報が分かりやすい (12.2%)」が上位であった。これらは高齢者のニーズを踏まえて、職員が重要と判断して取り組んだ環境づくりの目的である。

また、4 空間全体で 47 の環境づくりの目的の小項目が抽出され、環境づくりが一つの目的に集中するのではなく、高齢者の多様なニーズに対応して進められたことが示された。

(2) 環境づくりの目的の大分類

類似した小分類を集めた結果、9 つの大分類項目が抽出され、出現の高い順に表 1 に示した。

表1 環境づくりの目的の小分類及び大分類と出現状況

環境づくりの目的の小分類 47 項目				環境づくりの目的の	
食・レ・ビ・ン・グ : 14 項目	浴・室・ト・イ・レ・洗・面 : 10 項目	居・室 : 12 項目	廊・下・ホ・ール : 11 項目	大分類 : 9 項目	環境づくりの目的の
好きな活動を選べる11 (138)	自由に好きな時にできる4 (5.2)	居室で自分らしく過ごすことができる10 (16.7)	居心地の良い居場所がある12 (24.5)	自分で選べる1 (20)	自分で選べる67(25.2)
個人に合った過ごし方ができる11 (138)	個人の物を管理しやすい3 (3.9)	自分の私物を管理しやすい5 (8.3)	自分で過ごしやすい方を選べる1 (20)		
自分で居場所・ソファを選べる6 (7.5)		好みに合わせて選べる4 (6.7)			
小計 28 (35.1)	小計 7 (9.1)	小計 19 (31.7)	小計 13 (26.5)		
自分の力を生かして動作ができる7 (8.8)	自分の力を生かして動作ができる17 (22.1)	自分の力を生かして動作ができる2(3.3)	自分の力を生かして動作ができる8 (16.3)		自分の力を生かすことができる39 (14.7)
良い姿勢で食事とれる5 (6.3)	小計 17 (22.1)	小計 2 (3.3)	小計 8 (16.3)		
小計 12 (15.1)		快適に過ごせる6 (10.0)	周囲の環境から楽しく良い刺激を受ける8 (16.3)		周囲から良い刺激を受ける35 (13.2)
良い雰囲気の中で食事を楽しむ8 (10.0)			時間や季節の変化を感じる事ができる1 (2.0)		
きれいに整理され快適に過ごせる7 (8.8)			小計 9 (18.3)		
周囲の環境から適度な刺激を受ける5 (6.3)					
小計 20 (25.1)					
	入浴・整容・トイレを楽しむ13 (16.9)	排泄ケアが快適に受けられる5 (8.3)			入浴や排泄が快適にできる32 (12.0)
	清潔で快適に使える13 (16.9)				
	生活感があり使いやすい1 (1.3)				
	小計 27 (35.1)	小計 5 (8.3)			
	トイレ・風呂だと分りやすい7 (9.1)				
	小計 7 (9.1)				
	安全に動作ができる9 (11.7)				
	小計 9 (11.7)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (1.3)				
	小計 1 (1.3)				
	安全に自由に移動や動作ができる2 (2.5)				
	小計 2 (2.5)				
	プライバシーに配慮される1 (

それらは、「自分で選択できる (25.2%)」、「自分の力を生かすことができる (14.7%)」、「周囲から良い刺激を受ける (13.2%)」、「入浴や排泄が快適にできる (12.0%)」、「場所や時間などが分かりやすい (10.9%)」、「安全と安心が確保される (8.6%)」、「プライバシーに配慮される (6.4%)」、「社会的交流に配慮される (5.3%)」、「落ち着いて過ごすことができる (3.8%)」である。

「自分で選択できる」や「自分の力を生かすことができる」といった個人の自律に焦点を当てた目的が全体の4割に達した。「自分で選択できる」は、浴室・トイレ・洗面を除く3空間において最も多く取り組まれた環境づくりであった。一般的に認知症ケアで重要と言われる「安全と安心が確保される」や「落ち着いて過ごすことができる」を目的とした取り組みは、両方合わせて12.4%の出現率にとどまった。

3. 環境づくりの内容

(1) 環境づくりの実施手法

環境づくりの実施手法の分類に従い、物理的対応、ケア的対応、運営的対応に分類して、4空間別と全体の実施状況を表2に示した。4空間全体で469件の対応がみられ、ひとつの環境づくりあたり平均1.7であり、実施に向けて複数の手法が採用された。

物理的対応では、工夫が4空間全体で251件(94.4%)実施され、一方、購入(32件;12.0%)や工事(7件;2.6%)はわずかであった。この傾向は4空間に共通であった。

ケア的対応は、4空間全体の162件(60.9%)で実施され、多くの取り組みで物理的対応とケア的対応がセットで取り組まれたことが示された。空間別にみるとケア的対応の実施率は高い順に、浴室・トイレ・洗面(66.2%)、居室(65.0%)、食堂・リビング(58.8%)、廊下・ホール(51.0%)であった。運営的対応は、4空間全体で17件(6.4%)と低い値であった。

(2) 物理的対応に用いられた環境要素

環境要素の分類方法に基づき、物理的対応に用いられた環境要素を表3に示した。4空間全体で382の環境要素が取り入れられ、ひとつの環境づくりあたり平均1.4の環境要素が用いられた。

4空間全体で多く採用されたのは、小物198件(74.4%)、家具・福祉用具121件(45.5%)、その他55件(20.7%)であり、この傾向は4空間で共通であった。一方、構造や準構造レベルの取り組みは、合わせて8件(3.1%)ときわめてわずかであった。

具体的な環境要素の内訳を見ると、小物は36項目に分類でき、上位に目印、飾り、写真が上げられた。家具・福祉用具の内訳は19項目あり、テーブル、棚・収納ケース、ソファ・イスが上位であった。その他は上位から順に、色彩、空気、照明・採光、音であった。通常の家で用いられるような大変バラエティに富んだ環境要素が採用された。

表2 環境づくりに用いられた実施手法と実施状況

実施手法		実施手法の実施数（場所別環境づくりの実施件数に対する％） 最下段は環境づくりの実施件数				
		食堂・リビング	浴室・トイレ・洗面	居室	廊下・ホール	4空間全体
物理的対応	工夫	75 (93.8)	74 (96.1)	55 (91.7)	47 (95.9)	251 (94.4)
	購入	6 (7.5)	14 (18.2)	5 (8.3)	7 (14.3)	32 (12.0)
	工事	0 (0.0)	6 (7.8)	1 (1.7)	0 (0.0)	7 (2.6)
ケア的対応		47 (58.8)	51 (66.2)	39 (65.0)	25 (51.0)	162 (60.9)
運営的対応		8 (10.0)	2 (2.6)	3 (5.0)	4 (8.2)	17 (6.4)
3種類の対応の合計		136 (170.0)	147 (190.9)	103 (171.7)	83 (169.4)	469 (176.3)
環境づくりの実施件数		80件	77件	60件	49件	266件

表3 物理的対応に用いられた環境要素と実施状況

環境要素の種類		環境要素の実施数（場所別環境づくりの実施件数に対する％） 最下段は環境づくりの実施件数				
		食堂・リビング	浴室・トイレ・洗面	居室	廊下・ホール	4空間全体
構造		0 (0.0)	0 (0.0)	2 (3.3)	0 (0.0)	2 (0.8)
準構造		0 (0.0)	4 (5.2)	0 (0.0)	2 (4.1)	6 (2.3)
家具・福祉用具		47 (58.8)	24 (31.2)	25 (41.7)	25 (51.0)	121 (45.5)
小物		51 (63.8)	64 (83.1)	44 (73.3)	39 (79.6)	198 (74.4)
その他		12 (15.0)	18 (23.4)	18 (30.0)	7 (14.3)	55 (20.7)
環境要素の合計		110 (137.5)	110 (142.9)	89 (148.3)	73 (149.0)	382 (143.6)
環境づくりの実施件数		80件	77件	60件	49件	266件

4. PEAPに基づくサービス成果

PEAPに基づくサービス成果を、まず4空間全体について概観する（表4）。4空間全体で実施された266件の環境づくりで、合計1096のPEAPの次元が取り上げられた。PEAPによるサービス成果の分類に基づく、向上908件（82.8%）、やや向上46件（4.2%）、すでに環境づくりがされていて変化なし60件（5.5%）、その他変化なし72件（6.6%）、低下10件（0.9%）であり、高い向上率が示された。

向上した908件を取り上げ、4空間別にPEAPの各次元と合計について、向上率を表5に示した。向上率は表5に示すように、それぞれの実施数に対する向上数の割合である。4空間別の向上率は、浴室・トイレ・洗面が88.3%、廊下・ホール84.1%、居室81.8%、食堂・リビング77.9%の順であった。多人数での食事スタイルが残っている食堂・リビングの向上率が、若干低めであった。

PEAPの次元別の向上率を4空間全体で順にみると、「自己選択の次元（74.4%）」、「プライバシーの確保（76.8%）」、「ふれあいの促進（79.8%）」、「生活の継続性への支援（84.6%）」、「安全と安心への配慮（85.1%）」、「機能的な能力への支援（85.2%）」、「見当識への支援（85.8%）」、「環境における刺激の質と調整の次元（86.4%）」であった。このように、向上率は7割強～8割強の高い値に到達した。

266件の環境づくりに対して、8次元全体で向上数は908件であり、ひとつの環境づくりに対して平均3.4のPEAPの次元の向上が図られ、幅広い成果が得られたことが示された。

表4 PEAP 日本版3に基づく環境づくり前後の改善状況注1) (4空間合計)

改善状況数 (各次元の実施合計に対する%)

PEAPの8次元	向上 (×・?→○)	やや向上 (×→?)	変化なし (○→○)	変化なし (その他)	低下 (○・?→×)	実施合計
見当識への支援	121 (85.8)	6 (4.3)	7 (5.0)	5 (3.5)	2 (1.4)	141 (100.0)
機能的な能力への支援	109 (85.2)	4 (3.1)	7 (5.5)	8 (6.3)	0 (0.0)	128 (100.0)
環境における刺激の質と調整	146 (86.4)	8 (4.7)	6 (3.6)	9 (5.3)	0 (0.0)	169 (100.0)
安全と安心への配慮	137 (85.1)	8 (5.0)	7 (4.3)	6 (3.7)	3 (1.9)	161 (100.0)
生活の継続性への支援	137 (84.6)	5 (3.1)	6 (3.7)	12 (7.4)	2 (1.2)	162 (100.0)
自己選択への支援	96 (74.4)	9 (7.0)	11 (8.5)	12 (9.3)	1 (0.8)	129 (100.0)
プライバシーの確保	63 (76.8)	3 (3.7)	4 (4.9)	11 (13.4)	1 (1.2)	82 (100.0)
ふれあいの促進	99 (79.8)	3 (2.4)	12 (9.7)	9 (7.3)	1 (0.8)	124 (100.0)
8次元の合計	908 (82.8)	46 (4.2)	60 (5.5)	72 (6.6)	10 (0.9)	1096 (100.0)

注1) 環境づくりの前後にPEAP評価を実施(環境支援されている→○、良いとも悪いとも言えない→?、環境支援されていない→×、該当しない→ブランク)。それに基づき、向上～低下に分類した。

表5 PEAP 日本版3による評価に基づく環境づくり後の向上率

向上数/実施数(向上率%) 最下段は環境づくりの実施件数

PEAPの8次元	食堂・ リビング	浴室・トイレ・ 洗面	居室	廊下・ホール	4空間全体
見当識への支援	31/40 (77.5)	40/44 (90.9)	28/32 (87.5)	22/25 (88.0)	121/141 (85.8)
機能的な能力への支援	33/42 (78.6)	39/43 (90.7)	22/26 (84.6)	15/17 (88.2)	109/128 (85.2)
環境における刺激の質と調整	41/54 (75.9)	42/44 (95.5)	34/37 (91.9)	29/34 (85.3)	146/169 (86.4)
安全と安心への配慮	34/43 (79.1)	52/60 (86.7)	30/32 (93.8)	21/26 (80.8)	137/161 (85.1)
生活の継続性への支援	37/47 (78.7)	52/54 (96.3)	27/36 (75.0)	21/25 (84.0)	137/162 (84.6)
自己選択への支援	40/54 (74.1)	16/22 (72.7)	16/25 (64.0)	24/28 (85.7)	96/129 (74.4)
プライバシーの確保	9/14 (64.3)	26/32 (81.3)	14/20 (70.0)	14/16 (87.5)	63/82 (76.8)
ふれあいの促進	46/54 (85.2)	12/17 (70.6)	13/17 (76.5)	28/36 (77.8)	99/124 (79.8)
8次元の合計	271/348 (77.9)	279/316 (88.3)	184/225 (81.8)	174/207 (84.1)	908/1096 (82.8)
環境づくりの実施実数	80件	77件	60件	49件	266件

IV 考察

1. 環境づくりの目的の大分類の位置づけ

アメリカにおける高齢者集合住宅・施設環境およびPEAPによる認知症ケア環境に関する多くの研究から抽出された「高齢者居住環境の共通の次元」8項目²⁰⁾と本研究の「環境づくりの目的の大分類」9項目の比較により、環境づくりの目的の大分類の位置づけを考察する。

前者にある「安全(Safety)」、「見当識(Orientation)」、「身体機能(Functionality)」、「刺激(Stimulation)」、「社会的交流(Social interaction)」は、本研究の「安全と安心が確保される」、「場所や時間などが分かりやすい」、「自分の力を生かすことができる」、「周囲から良い刺激を受ける」、「社会的交流に配慮される」と合致する。前者にある、環境やプライバシーに対する「個人による統制(Personal control)」、自己やなつかしいものとの継続を表す「継続性(Continuity)」は、本研究の「自分で選択できる」、「プライバシーに配慮される」、「落ち着いて過ごすことができる」と近似しているといえる。前者にある変化するニーズへの対応を表す「変化(Change)」の概念は、本研究の「自分の力を生かすことができる」の項目をはじめとして、多くの項目で

高齢者の変化への柔軟な対応は織り込まれているといえる。本研究では、ケアの視点から「入浴や排泄が快適にできる」が抽出されたが、環境心理学的視点から行われたアメリカの研究には含まれていない項目であった。以上のように、本研究で抽出された環境支援の目的の大分類は、アメリカの多くの研究から抽出された「高齢者居住環境の共通の次元」8項目を包括した幅広い内容であったといえる。

また、介護福祉士養成施設の教員や施設・在宅事業所に所属する多職種の専門家に対する大規模調査では、介護福祉士の専門性を構成する第一因子として「個別生活支援」を挙げている²¹⁾。本研究の環境づくりの目的の大分類の上位に挙げられた「自分で選択できる」や「自分の力を生かすことができる」は、専門的な介護サービスとして求められる方向と合致しているといえる。

2. 環境づくりの内容とサービス成果および課題

本研究では環境づくりのサービス成果を、認知症を取り巻く環境が支援的であるか否かをPEAP日本版3の8つの次元で捉えた。環境づくりに用いられた環境要素は、小物や家具・福祉用具など小規模であったが、物理的対応とケアの対応をセットで実施することにより、PEAP日本版3の8次元が7割強～8割強の向上率となり大きく改善されたことが示された。

今後は、サービス成果の別の側面、例えば環境づくりとケアプランの改善などの検討も、取り組む課題である。

3. 環境づくり実践事例データ集（特養版）の提案と活用への示唆

環境づくり実践事例データ集（特養版）は、生活空間ごとに抽出された環境づくりの目的の小分類を一つの単位として、個々の環境づくり実践記録シートに記録された具体的な「目標設定」や「環境づくりの内容と写真」を取り上げて、本論文で行った「実施手法」、「環境要素」、「PEAP日本版3によるサービス成果」の分類を付加して、共通の視点から環境づくりの内容と得られたサービス成果を把握できる内容が考えられる（図2）。環境づくり実践事例データ集（特養版）は、今回の分析から、食堂・リビングでは14の小分類項目、浴室・トイレ・洗面では10の小分類項目、居室では12の小分類項目、廊下・ホールでは11の小分類項目、合計47の小分類項目から構成される。

環境づくり実践事例データ集は、施設環境づくり支援プログラムの各段階での活用が考えられる。スタートの段階では、環境づくりの豊かな事例はケアと環境への気づきを引き出し、目標設定・計画策定・実施の段階では実施可能な多様なアイデアを提供し、環境づくりの振り返りの段階では、データ集に比べ自分たちの取り組みは十分な成果に至っているか比較検討に活用できることが示唆される。このように環境づくり実践事例データ集は、現場の実践や教育・研修分野でも活用でき、環境を生かして認知症ケアの質の向上に寄与すると期待される。

4. 今後の課題

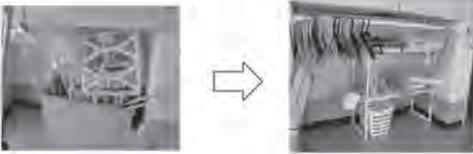
X社会福祉法人では、施設環境づくりと認知症の人がその人らしく暮らすためのアセスメント²²⁾を認知症ケア向上の柱と位置付けて、職員研修を行っている。今回対象とした環境づく

ID	目標設定	環境支援の内容	改善の環境要素					実施方法				PEAPの変化					
			構造	手構造	家具	小物	その他	物理的	ケアの工夫	通常の対応	視覚	聴覚	安全	継続性	自己選択	ふれ合い	
1	・人の集まる食堂に入る前に、自分で身だしなみを整えることができる。	・テーブルを専用ラックに交換した。壁容に用いる用品類を入れるボックス収納も用意した。 ・欲しいサイズの汚れない鏡は、ミラーシートを加工して作成。鏡は、車イス利用者でも見やすい高さに設置した。			1	1	1	1				○	○	○		×	○
121	・洗濯干し場が整頓され、自分で干し物ができる。	・木箱を撤去し、物を見えるように設置。 ・棚等は利用者が取りだしやすい高さへ調整。 ・洗濯物を干す、取りこむ、たたむ等を利用者と一緒に行う事を介護サポーターや職員に意識づけ。			1	1	1	1		○	○	○	○	○	○		○
163	・使いやすい、見やすい新聞置き場があり、自分で取れる	・新聞入れを木製のおしゃれな物に変更し、壁に固定。 ・必要に応じ、新聞置き場に虫眼鏡を設置。			1		1	1				○	○	○	○		○

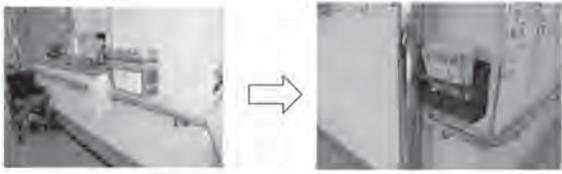
1



121



163



- 環境づくり後向上
- ◇ 環境づくり後やや向上
- △ 環境づくり後変化なし(○→△)
- ▲ 環境づくり後変化なし(その他)
- × 環境づくり後低下

注) 場所「廊下・ホール」、環境づくりの目的の小分類「自分の力を生かして動作ができる」に関する 8 事例から 3 事例を抜粋して例示した。なお、データ集全体は、環境づくりの目的の小分類 47 項目について、合計 266 事例が示される。

図 2 環境づくり実践事例データ集の例示

り実践はそれら研修を受けた職員が中心となり、環境づくり支援専門家の支援も受けて一定の水準の元を実施された取り組みである。今後は、「施設環境づくり支援プログラム」に基づき着実に実施された個室ユニット型施設・グループホーム・デイサービスセンターなど幅広い対象を取り上げて、入所施設・通所施設・在宅に適用可能な普遍的な内容へとさらなる蓄積が必要である。

「施設環境づくり支援プログラムの継続と向上のための理論モデル」⁶⁾では、利用者の行動改善や生活の質向上を利用者成果として位置づけている。今後、環境づくりが認知症高齢者の行動の改善にどのように寄与するか、またライフスタイルや心身状況など個々の認知症高齢者の背景も考慮した検討も必要である。

また、英国オックスフォード大学で始められた「健康と病の語り」をモデルとしたデータベースが、わが国でもインターネットを通じて専門家や当事者の教育や実践に有用性を発揮している²³⁾。情報ツールを活用した環境づくりの発信も今後の課題である。

注1) 本研究の一部は、日本社会事業大学社会事業研究所「介護福祉学の構築に関する研究(平成25～27年度)」で行われ、日本認知症ケア学会第15回大会(2014)¹⁹⁾および第16回大会(2015)²⁴⁾に報告した。本研究は、それらに新たな4年間のデータと分析を加えたものである。

注2) 本論文は、本学大島巖教授の推薦を受けた。

謝辞：施設環境づくりを認知症ケア向上に向けた事業計画に位置付け、長年にわたり環境づくりに取り組まれ、研究にご協力いただいたX社会福祉法人および職員の皆様に深謝いたします。

文献

- 1) Cohen U, Weisman GD (1991) Holding on to home - Designing environments for people with dementia. The Johns Hopkins University Press. (岡田威海監訳、浜崎裕子訳(1995) 老人性痴呆症のための環境デザインー症状緩和と介護をたすける生活空間づくりの指針と手法. 彰国社, 第1版, 14-305.)
- 2) 児玉桂子, 古賀誉章, 沼田恭子, ほか(2010) PEAPにもとづく認知症ケアのための施設環境づくり実践マニュアル. 中央法規, 第一版, 2-85.
- 3) 児玉桂子, 古賀誉章, 沼田恭子, ほか(2011)「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」の全国レベルでの普及を目的とした実践研究. 日本社会事業大学社会事業研究所紀要. 第57集, 167-177. (<http://id.nii.ac.jp/1137/00000031/>, 2018.10.2.)
- 4) 児玉桂子, 古賀誉章, 沼田恭子, ほか(2012)「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」の全国レベルでの普及を目的とした実践研究に基づく教材開発. 日本社会事業大学社会事業研究所紀要. 第58集, 127-143. (<http://id.nii.ac.jp/1137/00000018/>, 2018.10.2.)

- 5) Rossi PH, Lipsey MW, Freeman HE (2004) Evaluation ; A systematic approach. 6th ed. Sage publications, (大島巖, 平岡公一, 森俊夫, ほか監訳 (2005) プログラム評価の理論と方法—システムティックな対人サービス・政策評価の実践ガイド. 日本評論社, 第1版, 1-383.)
- 6) 児玉桂子, 廣瀬圭子, 鈴木真智子, ほか (2016) 「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」の継続と向上のための仕組みの検討—実践者による自己評価とピア評価に基づく—. 日本社会事業大学社会事業研究所紀要. 第63集, 97-114.
(<http://id.nii.ac.jp/1137/00000405/>, 2018.10.2.)
- 7) 廣瀬圭子, 児玉桂子, 大島千帆, ほか (2012) 「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」の効果の実施モデルの構築—プログラム評価理論及び方法論の適用. 日本社会事業大学社会事業研究所紀要. 第58集, 109-123.
(<http://id.nii.ac.jp/1137/00000017/>, 2018.10.2.)
- 8) 日本認知症ケア学会編 (2015) 認知症標準テキスト改訂4版認知症ケア事例集. ワールドプランニング, 3-241.
- 9) 認知症介護研究・研修仙台センター (2013) 平成24年度老人保健事業報告書：認知症における行動・心理症状 (BPSD) 対応モデルの構築に関する研究事業. 認知症介護研究・研修仙台センター, 1-134.
(http://www.dcnnet.gr.jp/pdf/download/support/research/center3/187/sendai_h24bpsd_all.pdf/, 2018.10.2)
- 10) 認知症介護研究・研修東京センター (2018) 平成29年度 認知症ケアレジストリ研究 BPSD スポット調査報告書—食事に関する BPSD とケア編—. 認知症介護研究・研修東京センター, 1-147.
(http://www.dcnnet.gr.jp/pdf/download/support/research/center1/303/th29__bpsd_tyousa_doc.pdf/, 2018.10.2)
- 11) 認知症介護研究・研修大府センター (2018) 平成29年度 認知症ケアレジストリ研究 BPSD スポット調査報告書—妄想、収集、焦燥等の BPSD とケア編—. 認知症介護研究・研修大府センター, 1-101.
(http://www.dcnnet.gr.jp/pdf/download/support/research/center2/306/oh29__bpsd_tyousa_doc.pdf/, 2018.10.2)
- 12) 認知症介護研究・研修仙台センター (2018) 平成29年度 認知症ケアレジストリ研究 BPSD スポット調査報告書—暴力・暴言等の BPSD とケア編—. 認知症介護研究・研修仙台センター, 1-100.
(http://www.dcnnet.gr.jp/pdf/download/support/research/center3/356/sh29__bpsd_tyousa_doc.pdf/, 2018.10.2)
- 13) 赤木徹也, 鯉坂誠之 (2013) わが国における認知症高齢者の住環境に関する書誌学的研究—研究知見に基づく環境アセスメントと環境デザインへの示唆. 日本認知症ケア学会誌. 12 (2), 340-353.

- 14) 日本建築学会編 (2009) 症状・行動への環境対応 Q&A 認知症ケア環境辞典. ワールドブ
ランニング, 第1版, 3-252.
- 15) Weisman GD, Lawton MP, Sloane P, et al. (1996) The professional environmental assess-
ment protocol. School of architecture, University of Wisconsin at Milwaukee.
- 16) 下垣光, 児玉桂子, 影山優子, ほか (2009) 環境支援指針の作成と活用上の課題. 児玉桂子,
足立啓, 下垣光, ほか (編) 認知症高齢者が安心できるケア環境づくり—実践に役立つ環
境評価と整備手法. 彰国社, 第1版, 66-78.
- 17) 安田節之, 渡辺直登 (2008) プログラム評価研究の方法. 山下晴彦 (編) 臨床心理学研究法 7.
新曜社, 第1版, 40-52.
- 18) 児玉桂子, 古賀誉章, 沼田恭子, ほか (2013) 「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり地
域連続型研修」とその効果—ケア環境・研修参加者の意識・利用者の行動に及ぼす影響の
評価—. 日本社会事業大学社会事業研究所紀要. 第59集, 151-166.
(<http://id.nii.ac.jp/1137/00000052/>, 2018.10.2.)
- 19) 児玉桂子, 大島千帆, 古賀誉章, ほか (2014) 施設環境づくり実践記録シートに基づく環
境づくり実践内容と効果に関する検討—認知症ケア技術としての環境支援の構築に向け
て—. 第15回日本認知症ケア学会大会抄録集.
- 20) Lawton MP, Weisman GD, Sloane P, et al. (1997) Assessing environments for older
people with chronic illness. Journal of Mental Health and Aging. 3 (1), 83-100.
- 21) 安 瓊伊 (2015) 介護福祉士の専門性の構造—専門性の2重構造の仮説検証—. 介護福祉学.
22 (2), 91-102.
- 22) 認知症介護研究・研修東京センターほか編 (2009) 改訂第2版認知症の人のためのケアマ
ネジメントセンター方式の使い方・活かし方. 中央法規, 第2版, 1-226.
- 23) NPO 法人健康と病の語りディベックス・ジャパン (2018) 健康と病の語り 認知症の語り.
NPO 法人健康と病の語りディベックス・ジャパン.
(<http://www.dipex-j.org/dementia/>, 2018.10.17.)
- 24) 児玉桂子, 大島千帆, 古賀誉章, ほか (2015) 認知症高齢者への環境支援のためのデー
タベース (特養版) の作成—施設環境づくり実践記録シートの実践内容と効果に基づく—. 第
16回日本認知症ケア学会大会抄録集. 261.